

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

県内には石仏や石塔など多くの石の工芸品が伝わるが、自然石にまつわる石の民俗も豊かに残っている。

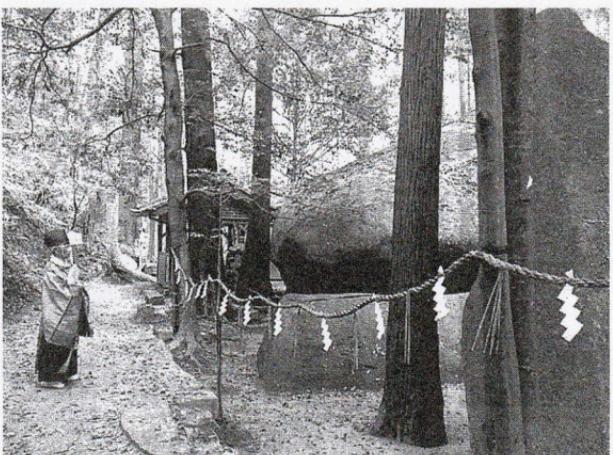
奈良市柳生は、木津川に合流する今川(打滝川)に沿う集落だが、下流の柳生下町の集落外れには、アタヤ(阿村)の石仏がある。川岸の巨岩に阿弥陀如来と地蔵菩薩が半肉彫りされており、阿弥陀如来は鎌倉末期とされ、流行病除け、地蔵尊は室町期の追刻とされる。豆腐を供えて子宝祈願をするという。

上流の柳生町の柳生街道沿いの山道には、正長

の土一揆(1428年)<sup>※</sup>の徳政碑文で知られる瘤

瘡地蔵がある。これも巨岩に地蔵菩薩などを彫ったものだ。笠置に通じる道と奈良に通じる道に疫病を拒む阿弥陀や地蔵を刻んで、集落を守ろうとしている。

柳生の中心部から東の山の中には、天乃石立神社がある。延喜式神名帳の「天乃石立神社」に比定されるこの神社は、本殿ではなく、地中に埋もれた巨大な板状の岩を神体としている。戸磐明神とも云ふ。戸岩さんとも呼ばれていた。拝殿側から見て前伏磐、前立磐、後立磐と



天乃石立神社(右端から前立磐、前伏磐、キンチャク磐、一番奥が拝殿)とそばに立つ石田武士宮司  
=奈良市柳生町で、筆者提供

## 柳生で続く巨石信仰

三つの岩があり、拝殿左手には丸いキンチャク磐が山の斜面からせり出している。

背後の谷奥には、柳生新陰流を編み出した柳生

宗嚴(石州斎)が戸岩谷で剣術修行の際、天狗と対戦して一刀のもとに切り捨てた、と思えば大岩が二つに割れていたという一刀石がある。

毎年7月最終(今年は第4)日曜日には、この戸岩さんで祭りが行われる。今年は宮司以下、柳生の上と下で組織される十二人衆(呼称はジュウニン衆)の代表であるネギと副ネギ、氏子総代やネンニヨ、自治会長など15人ほどが参加した。終わると元はこの場でゴザを敷いて直会をしていた

が、かつて雨に遭って以来、柳生陣屋跡近くの八坂神社で行うようになつたという。参会者の一人は、ここに来ると空気が違つと語っていた。

大きな戸岩や丸石が並んだ森の下、襟を正すような厳かな雰囲気が漂つなか、昔のままに巨石を祭り、その場で酒を酌み交わす光景を想像してみた。柳生の地は、春日大社の神供料を出す神戸四箇郷の一つとして、古くから同社とつながり深い土地柄だが、生活の根元には巨石への信仰が今も連綿と生き続けている。

(奈良民俗文化研究所代

表)